

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 17 日現在

機関番号：32504

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2014

課題番号：25870687

研究課題名(和文)植民地支配が独立後の経済発展に与えた影響に関する研究

研究課題名(英文)On the effects of colonial rule on postcolonial development

研究代表者

水野 伸宏 (Mizuno, Nobuhiro)

千葉商科大学・商経学部・講師

研究者番号：60584505

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 600,000円

研究成果の概要(和文)：独立後のアフリカ諸国では中央政府と地方エリートの提携関係がしばしば観察され、中央政府の地方統治に協力する見返りとして地方エリートに中央政府から権限や資源が委譲されている。こうした提携関係は多くのアフリカ諸国で観察されているが、中央政府が地方エリートを優遇する程度は国や地域によって大きく異なる。本研究はこのような提携関係の発生要因とそのメカニズムを理論的に分析し、どのような地域で地方エリートが優遇されるかを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Alliances between national governments and rural elites are observed in postcolonial Africa, in which national governments rely on rural elites to control rural regions and guarantee them a degree of authority and revenue in return. The degree to which national governments cede resources and prerogatives to rural elites varies across and within countries. This study theoretically reveals why and when national governments provide a privileged status for rural elites.

研究分野：経済発展

キーワード：アフリカ 植民地支配 中央政府と地方エリートの関係 商品作物と税収

1. 研究開始当初の背景

- (1) 経済発展の経路は国によって大きく異なっている。近年、この各国の経済発展の差を過去の歴史の影響によって説明しようとする研究が盛んになりつつある。
- (2) 植民地支配は大きく直接統治と間接統治に区分できる。直接統治では、宗主国が現地に官僚組織を構築し、宗主国の定めた法に基づいて中央集権的な支配が行われる。一方、間接統治では、宗主国によって任命された現地人エリートが現地の慣習的なルールに基づいて行政を行う。各現地人エリートが担当する地域は狭いので、間接統治では統治権力は分散し、それぞれの地域を各地域の現地人エリートが統治する。このような間接統治は、ヨーロッパ人の大規模な入植が困難であったアフリカ植民地(特に中央から離れた地方)では程度の差はあるが一般的に行われていた。間接統治の重要な帰結として、統治を担う現地人エリートの住民に対する支配が強化された点が挙げられる。
- (3) 独立後のアフリカ諸国に観察される政治的構造として以下の2点が挙げられる。()国民を支配することができない弱い政府()地方エリートが中央政府の地方統治に協力する見返りとして、地方エリートの特権的地位が中央政府によって支持・強化される提携関係

2. 研究の目的

- (1) 独立後のアフリカ諸国の中央政府が住民に対する支配を確立できないのはなぜか?
- (2) 独立後のアフリカ諸国において、上述した中央政府と地方エリートの提携関係が生じる要因とメカニズムは何か?

この2点の問いに対して、植民地支配の遺産という観点から理論的な説明を提示するのが本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究は経済理論に基づいた数理モデルを構築し、研究目的欄で述べた2点の問いに対して理論的仮説を提示する。さらに、提示した理論モデルの妥当性を確認するために理論モデルから導かれた結果が現実に観察される事例と整合的であるかどうかを事例研

究に基づいて確認する。

(1) 理論モデルを構築する際の着眼点

間接統治により地方には中央とは独立した地方エリートを長とする社会が形成される。そのような状況で政府が国家建設を行う場合、政府が構築するフォーマルな制度と地方エリートを長とするインフォーマルな制度が競合することになる。市民はこの2つの制度のうちいずれに従うかを選択しなければならない。政府、地方エリートは自分の制度から逸脱する市民を罰する。この罰する能力を統治能力と解釈する。この統治能力が高いほど、市民を自らの制度に留め自ら定めたルールに従わせることができる。独立後の政府の統治能力は統治機構に対する投資量によって決定され、この投資を多く行うインセンティブを保有する場合に強い国家が誕生する。

(2) 理論モデルを構築する際の着眼点

独立後のアフリカ諸国において、中央政府の主要な収入源は商品作物に対する課税であった。商品作物は多くのアフリカ諸国において主要生産物であり、政府は商品作物を国際価格よりも低い価格で買い取り、国際市場で売却することで収入を確保していた。したがって、商品作物を生産する地方農民に対する支配の確立が中央政府にとって重要な課題であり、この点が中央政府の地方統治を確立するインセンティブを考察するうえで重要な論点となる。

(3) 理論モデルの概要

モデルは中央政府、地方エリート、商品作物の生産者の3人のプレーヤーから成るゲーム理論的モデルとなっている。植民地時代からアフリカ諸国の主要生産物は商品作物であり、国際価格よりも低い価格で生産者から作物を買い取る形で徴税することが独立後の中央政府にとって主要な収入確保の手段であった。一方、商品作物の生産地である地方の統治は、間接統治の程度によって地域間で差はあるが、植民地時代には地方エリートに委任されており、地域によっては商品作物の生産管理や流通なども地方エリートによって支配されていた。こうした地域では地方エリートは商品作物部門から大きな収入を得ていた。

本モデルでは、こうした現実を踏まえ、独立後の中央政府と地方エリートが収入を求めて互いに農民から商品作物を買い取るうとする状況を考察する。

最初に、中央政府と地方エリートの協力関係が存在しない場合を考察し、その結果に基づいて、中央政府と地方エリートが協力関係を構築することができる状況を考え、(ア)

提携関係が発生する条件、(イ)提携関係における地方エリートの地位に影響する要因、の2点を明らかにしてゆく。

協力関係がない場合、中央政府と地方エリートそれぞれが生産者に商品作物の買取価格を提示し、生産者はどちらに作物を売却するかを決定する。本モデルの特徴は、中央政府と地方エリートが自らに作物を売却しなかった生産者に罰を課することができる点である。この時、中央政府が生産者から作物を買い取ることが出来るか否かは、地方エリートよりも大きな罰を生産者に課することができるかどうかによって決まる。さらに地方エリートが生産者に大きな罰を課することができる時、中央政府が生産者から買い取る作物の買取価格は高くなる(この時、政府の収入は減少する)。したがって、植民地時代に間接統治が徹底して行われていた地域のように、地方エリートが住民に対して強力な支配関係を築いている地域では、中央政府は地方農民を自らの意図通りに支配することができず、地方において収入を確保することが困難となる。

この基本モデルを研究目的に沿って、以下の2つの面で拡張する。

() 中央政府と地方エリートの提携関係とその内容を分析するために、両者が競争を避けて協力関係を結べる状況を考える。中央政府と地方エリートが協力関係を選ぶ場合には、両者は合同で買取価格を提示して独占的に作物を買い取り、その収入の配分を交渉で決定する。交渉が決裂した場合には上述の基本モデルが適用される。理論モデルの分析の結果、交渉は常に成立することが示されるが、すべての収入を中央政府が得て、地方エリートには何も与えられないケースがある。この場合を中央政府と地方エリートの間に提携関係が存在しない場合と解釈する。

() 中央政府の住民に対する統治能力の決定要因を明らかにするために、中央政府は地方住民に罰を与える力を統治機構に対する投資によって増加させることができるとする。中央政府は地方エリートとの交渉結果を予想してどれだけ投資を行うべきかを決定する。

4. 研究成果

上述した理論モデルを分析した結果以下の結論を得た。

(1) 理論結果

中央政府と地方エリートの提携関係が構築される場合、地方エリートの特権的地位(ここでは収入の地方エリートへの配分)は以下の状況下で上昇する。

- (a) 間接統治の程度が強く、地方エリートの住民に対する統治能力が強い

- (b) 地方エリートが商品作物の国際市場に容易にアクセスできる

- (c) 商品作物の生産量が低い

- (d) 中央政府にとって、地方住民に対する統治能力を増加させるコストが大きい

上述した通り、地方エリートが生産者に大きな罰を課することができる状況では、協力関係が崩れた際の中央政府の収入は低い。したがって、このようなケースでは、中央政府の交渉力は低下し、交渉の段階で地方エリートに多くの譲歩を行うことになる。したがって、間接統治の程度が高く、地方エリートが住民に対して強力な支配関係を構築している地域ほど、独立後に中央政府は地方エリートと提携する上で大きな譲歩を行うということになる。

(2) 理論結果

中央政府の住民に対する統治能力は以下の通り決定される

- (a) 中央政府と地方エリートの提携関係がある場合、中央政府の統治能力は、商品作物の生産量が多いほど高く、地方住民に対する統治能力を増加させるコストが小さいほど高い。

- (b) 中央政府と地方エリートの提携関係がない場合、中央政府の統治能力は、間接統治の程度が高いほど高く、地方エリートが国際市場に容易にアクセスできるほど高い。

以上の理論結果をまとめると、中央政府と地方エリートの提携関係が存在する場合には、強力な地方エリートほど特権的な地位を得ることになる。さらに、中央政府の統治能力と地方エリートの統治能力の関係は提携関係が存在するか否かによって異なり、提携関係が存在しない場合には、強力な地方エリートが存在するほど中央政府は統治能力に大きな投資を実行することになる。

本研究では以上の理論結果の妥当性を確認するために、理論結果が実際に観察される事実と整合的であるかどうかを以下の事例分析によって確認した。

(3) ナイジェリアとニジェールの比較

ナイジェリアとニジェールはどちらもハウサ族が居住する国である。ナイジェリアは旧イギリス植民地であり植民地時代に間接統治を経験した。一方、ニジェールは旧フランス植民地であり、ナイジェリアと比べて間接統治の程度は低かった。独立後、ナイジェリアのハウサ族の首長は政府から特権的地位を与えられたのに対して、ニジェールのハウ

サ族の首長には与えられなかった。この事例は中央政府と地方エリートの提携関係が存在する場合には、強力な地方エリートほど特権的な地位を得ることになるという理論結果 (a)と整合的である。

(4)セネガルの事例分析

セネガルは旧フランス植民地であるが、間接統治の程度は地域によって大きな差があり、Groundnut Basin 地方では間接統治の程度が高かったのに対して Lower Casamance 地方ではそうではなかった。独立後の中央政府は Groundnut Basin 地方のエリートに対して様々な特権や資源を委譲しているが、Lower Casamance ではそのような関係は存在しない。この点も上述の理論結果 (a)と整合的である。

(5) ガーナのアサンテ地方の事例分析

アサンテ地方には植民地時代以前から中央集権的な国家が存在し、イギリス統治下での間接統治の結果、現地エリートの権力はさらに強化した。独立後のガーナ政府はこうしたエリートを排除し、カカオの主要生産地であるこの地方を直接統治しようとした。その過程で、住民に対する統治能力を拡大するために政府の統治機構の建設に多大な投資を行っている。この点は上述の理論結果 (b)と整合的である。

(6)コートジボワール南部の事例分析

コートジボワール南部も独立後に中央政府が地方エリートとの提携関係を構築しなかった事例であるが、アサンテ地方とは異なりこの地方には強力な地方エリートが存在しなかった。その結果、政府による統治機構に対する投資も観察されず、理論結果 (b)と整合的である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 2 件)

水野伸宏、「Political Structure as a Legacy of Indirect Colonial Rule: Bargaining between National Governments and Rural Elites in Africa」、The 51st Annual Meetings of the Public Choice Society、チャールストン(アメリカ合衆国)、2014年3月7日

水野伸宏、「Political Structure as a

Legacy of Indirect Colonial Rule: Bargaining between National Governments and Rural Elites in Africa」、PET14、シートル(アメリカ合衆国)、2014年7月11日

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

MPRA Paper No.60587

<http://mpr.ub.uni-muenchen.de/60587/>
本研究の成果をワーキングペーパーにまとめて公開した。論文タイトル「Political Structure as a Legacy of Indirect Colonial Rule: Bargaining between National Governments and Rural Elites in Africa」

6. 研究組織

(1)研究代表者

水野伸宏 (Mizuno, Nobuhiro)
千葉商科大学・商経学部・講師
研究者番号：60584505

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：